



佐々木貴史

安全安心なまちづくりについて

問 善良な市民を巧妙な手段で狙う振り込み詐欺を撲滅するという強い決意で質問する。振り込み詐欺被害防止対策として自動通話録音機設置の推進に取り組まれているが、その効果と実績、今後の予定を伺う。

答 東京都無償貸与分と市購入分を含め、平成27年度から貸与を開始しており、現在までに180台を市民の皆様へ貸与。今年度も100台を購入、7月から貸与を始める予定。自動通話録音機設置世帯から被害は発生しておらず、効果は顕著にあらわれている。

市政運営について

問 市の財政状況について高橋市長就任後は規律ある財政運営に取り組み改善されている。2期目の公約の「市民1人当たりの借金を1万円減らし、貯金を1万円増額」の見通しについて伺う。

答 借金(市債)は、平成31年度末までに8億円減少させ195億円、貯金(財政調整基金)は8億円増額して、平成31年度末に21億2千万円とするものであるが、平成28年度末で市債残高は約4億2870万円の減少、財政調整基金残高は約1億8000万円の増額見込み。

市民要望の実現に向けて

問 ダブルダッチについて、このたび狛江の子供たちのチームがダブルダッチコンテストで優勝し香港での世界大会に出場される。世界で活躍する子供たちの頑張りにより市として何か応援できないかを伺う。

答 子供たちが世界で活躍できる環境として「狛江市立学校部活動等大会参加補助金交付要綱」に基づき、考えていく。今後、財政課と調整の上、世界大会出場に向けた条件整備を検討する。

用語解説

- ※1…川や水路を流れる水の力を利用する小規模な水力発電。
- ※2…親が子供の前で配偶者等に暴力を振るうこと。
- ※3…発達障がいのある夫または妻と気持ちの共感が得られないために生じる身体的・精神的症状。
- ※4…問題等の悩みを抱えた人々が当事者同士の自発的なつながりで結びついた集団。
- ※5…排他的経済水域。
- ※6…太陽光により舗装面が50度以上になり、子供やペット等が影響を受けること(照り返し)。
- ※7…不特定多数の人が通常インターネット経由で他の人々や組織に財源の提供や協力などを行うこと。
- ※8…大規模災害発生時に、他自治体や民間団体等からの人的・物的支援を円滑に受け入れるための計画。
- ※9…人工呼吸器をつけているなど日常生活を営むために医療的ケアを必要とする子供のこと。
- ※10…医療的ケアを受けている重い障がいのある子供を自宅で介護する家族が、ひとときの休息を取れるようサポートする事業。
- ※11…生活を維持するために必要な行為を行う意欲を喪失し、自己の健康・安全を損なうこと。
- ※12…視覚障がい者が公共施設などを安全に移動できるよう点字等を設置した案内板。
- ※13…腹部などに排泄のための人口肛門等を造設した人。
- ※14…保護者や関係機関に対する学校の窓口として、また、学校内関係者や福祉、医療等の関係機関との連絡調整の役割を担う人。
- ※15…国立長寿医療研究センターが認知症予防を目的に開発したプログラム。
- ※16…プリンターで作成した小型生ごみ処理容器で、太陽光と土の中の微生物の力で生ごみを分解する。
- ※17…非常用飲料水などを入れた収納棚。
- ※18…業者選定を行う際、実績や体制などを含めた提案で判断する方式。
- ※19…新生児の先天的な病気の早期発見を目的とした検査。

総務文教常任委員会

総務文教常任委員会では平成28年第四回定例会で「18歳選挙権への対策について」及び平成29年第一回定例会で「特別支援教育について」報告書を提出しました。

「18歳選挙権への対策について」は、若者の政治離れが問題とされ、20歳代の投票率が伸び悩む中で、新たに選挙権を与えられる若い世代に、政治に関心を持ってもらい、主権者としての意識を高め、より多くの若者に一票の重みを考えてもらえるよう、調査研究することとしました。

文京区立本郷小学校での現地調査、学生団体ivote(アイ・ヴォート)との意見交換、狛江高校生徒会との意見交換、狛江高校での選挙についてのアンケートを行い、今後、狛江高校、教育委員会、選挙管理委員会、議会が有機的に連携ができるようにしていきたいと提言しました。

「特別支援教育について」は、狛江市では他の自治体より早く特別支援教育に力を入れていて、特に特別支援教室(小学校)については、平成24年度からのモデル事業を経て平成27年度から本格実施されました。

今までは、小学校2校に1校の拠点校を設置し、児童が拠点校に通っていましたが、現在では、拠点校教員が巡回指導校に出向き指導する狛江市モデルを実施しています。

児童の移動時間がなくなったために保護者の負担や在籍学級での授業速度の心配が軽減され、通級利用児童数も年々増加し、今年度は中学校特別支援教室モデル事業が始まっています。今後は、一人一人に合った教育が求められている中で、現状把握と問題解決に向けて調査を行うこととしました。

狛江市にある6校の小学校の特別支援教室に現地視察を行い、校長先生や担当の先生との意見交換や特別支援教室を利用している保護者の会とも意見交換をし、さらに、言語聴覚士の中川信子先生を参考人として招き、狛江市の特別支援教育の現状について意見をいただきました。

社会常任委員会

社会常任委員会では平成29年第一回定例会で「地域包括ケアシステムについて」及び「子供の貧困対策と居場所づくりについて」報告書を提出しました。

「地域包括ケアシステムについて」は、全ての高齢者が、その人らしく住みなれた地域で安心して生き生きと暮らせる、地域包括ケアシステムの支援を必要とする対象者を減少させるための予防と早期対応ができる、認知症になっても最後まで自分らしく生きられるなど、地域包括ケアシステムを構築する上で、充実させたいことや市民の要望など施策として盛り込んでいただきたいことなどについて提言をまとめました。

提言をまとめるに当たり、先進市である千葉県柏市を視察するとともに、狛江市内の地域包括支援センターの「あいとぴあセンター」と、狛江市内で初めて設置された「こまほつとシルバールーム相談室狛江団地」を訪問し、ヒアリングを行いました。

「子供の貧困対策と居場所づくりについて」は、子供の貧困問題が年々深刻になり、貧困と格差が一層拡大している中、親の失業や低収入など家庭状況の悪化で、親、子、孫と世代が変わってもその状態から脱出することができない「貧困の連鎖」がより深刻となっており、早急に対策が求められています。

また、ひとり親家庭や共働きの家庭で、夜遅くまで一人で過ごす子供たちが、食事や学習、団らんなどを通して安心して過ごすことができる「子供の居場所づくり」の取り組みが広がっています。

こうした中、身近に運営している子ども食堂などを視察しながら、「子供の貧困対策」「子供の居場所づくり」について調査を進め、市政の施策として取り組んでいただきたいことについて提言をまとめました。提言をまとめるに当たり、「子どもの貧困対策本部」を設置し「子どもの健康・生活実態調査」「子どもの貧困対策実施計画」を策定し、本格的に進めている足立区への視察を行いました。

建設環境常任委員会

建設環境常任委員会では平成29年第一回定例会で「コミュニティサイクルについて(地球温暖化対策、CO₂削減、環境対策)」報告書を提出しました。

国、東京都の自転車利用促進事業が推進される中で、「環境にやさしいまち狛江」として地球温暖化対策、低炭素社会実現への対策の観点から、市民の利便性、交通の利便性等を踏まえ、狛江市に合ったコミュニティサイクルの利用方法等について調査研究をしていくこととしました。

提言をまとめるに当たり、千代田区の「ちよくる」、福生市の「たっけー☆サイクル」、世田谷区の「がやりん」(共同事業者である株式会社Hーエスキューブも同席)を視察しました。

狛江市の現状の課題は三点あり、一つ目は平成28年度都市内交通事故件数出現率を比較し、道路上での歩行者と自転車等との接触事故が微増している現状において、自転車に関する総合計画が策定されていないことが挙げられます。今後、狛江市自転車総合計画(仮)の策定や市民ニーズの掘り起こしの意味を含め、市民意識調査を行う必要があります。

二つ目は狛江市の通勤・通学、商業地域への公共交通機関は南北を結ぶ交通手段が少なく不便であることです。

三つ目は、環境施策CO₂排出削減施策において、現状市民一人ひとりが実感できるものが少なく、積極的な参加や意識醸成ができていないことが挙げられます。

現状の課題を踏まえ、狛江市に二つの提言を行いました。

一つ目はコミュニティサイクルに関する市民ニーズの把握とともに、コミュニティサイクル導入の有効性の調査・研究を行うこと。

二つ目は国や都の自転車活用推進計画の策定を視野に入れた、調査・研究を行うこと。

詳細は、市議会ホームページ「市議会の活動」に報告書の全文を掲載してありますので、ご覧ください。